

学年通信

6月23日(火)
第 6 号

小牧市立小牧西中学校3年生

オリンピックデー

夏来る

6月27日(土)から運動部の3年生にとって最後の市内大会が始まります。全国大会までつながる最後の大会です。これまでをふり返ってみると、順風満帆でここまでたどり着いた部活動は無いはずです。どの学校、どの部活動も様々な逆境がありながら、この大会に挑んでいるのではないかと思います。

部活動の世界では「秋・冬は経験値の高いチームが勝つ」「いいチームは夏に強い」「夏は神様に愛されたチームが勝つ」とよく言われます。秋や冬の大会は新チームになってまだ日も浅く、旧チームで試合に出場し経験値の高い選手の多いチームが有利と言われます。しかし、夏はどのチームも様々なことを経験し、チームとして成熟し、その差は無くなっています。実力が拮抗しているチーム同士では、どれだけの準備をしていくことができたか。それは技術だけでなく、逆境に立たされた時に立て直すための精神力や、運を引き寄せるための日々の生活など、全てが重なりあって結果が出ます。しかし、1度も負けることなくこの大会を終えるチームは全国で1チームのみです。それ以外は必ずどこかで負けてしまいます。勝負の世界で勝ち負けは確かに大切です。ただ、部活動で大切なことは「そこで何を学ぶか」「最後の大会を終えた時に自分の中に何が残るか」ではないかと思います。それは一人一人違うものであります。これからの自分の人生において大きな力となる「何か」をつかんで欲しいと願っています。

保護者の皆様には応援はもちろんお弁当の用意や送迎等、お支えいただき、感謝申し上げます。最後まで精一杯戦い抜くこと。その姿を後輩に繋げること。有終の美を飾れるように、職員一同、最後まで応援していきたいと思っております。

ちょっと昔話…

私自身、中学から大学までずっと部活動をしてきました。高校・大学では部活のために学校に行っていたと言ってもいいほど、陸上競技に打ち込んでいました。特に大学では長距離ブロックの学生トレーナーとして活動していました。ありがたいことに、打倒関東を目指してチームとして全国大会に出場したり、日本一になった選手を間近でサポートさせてもらえたりと貴重な経験をすることができました。

そんな大学時代ですが教員になった今、夏の大会前に思い出すことがあります。今でこそ知らない人はいないであろう青山学院大学駅伝チーム。それは青学が33年ぶりに箱根駅伝の予選会を突破し、本選出場した年です。縁あって、夏に青学の選手たちが私の大学へ合宿にやってきました。その選手たちは主力選手ではありませんでした。しかし、練習に向けての準備や意識の高さ。話をすることで自分の意識の低さを痛感しました。それだけでなく、箱根駅伝予選会を突破したとき、同級生の一人に祝福の連絡をしました。その同級生は選手として出場した訳ではないのに選手以上に喜んでいました。細かいことを言い出すとキリがありませんが、この2つのことは中学生の部活動であっても通じる「チーム」として戦う上で大切なことを思い出させてくれます。

○進路希望調査についてのお願い

6月23日(火)に第2回進路希望調査を配付しました。今回もフォームズからの入力になります。夏の懇談会での資料にもなります。お子様とよくご相談いただき、群・グループを考えて、具体的に入力していただきますようお願いいたします。